

京都芸術劇場 春秋座 藤間勘十郎芸術監督プログラム



芸術監督

# 藤間勘十郎の 芸能講座

第一回

芸術監督  
VS.  
芸術監督



2024年11月24日(日)

14時開演(13時30分開場)

京都芸術劇場 春秋座(京都芸術大学内)

主催・企画・制作: 京都芸術大学 舞台芸術研究センター

毎回、藤間勘十郎が話を伺いたい様々なジャンルゲストをお迎えし、実演も交えながら芸能の奥深さ、豊かさの源泉、そして楽しさを探ってまいります。第一回は国立劇場おきなわから金城真次芸術監督をお迎えして、琉球芸能と日本舞踊の相違点や真髓、その魅力に迫ります。

京都芸術劇場 春秋座 芸術監督 藤間勘十郎

## プロフィール 藤間勘十郎

昭和55年3月母三世藤間勘祖と父梅若桜雪のもとに長男として生まれる。祖父と母の後を継ぎ歌舞伎の振付、演出を手掛ける。昭和58年4月『七世宗家継承の会』にて藤間凌（リョウ）を名乗り長唄『雨の五郎』で初舞台。61年11月『第一回藤間康詞リサイタル』にて藤間資真（スケマサ）を名乗る。平成2年9月『宗家藤間流襲名舞踊会』にて二世・藤間康詞（ミチノリ）を襲名。14年9月『二世勘祖13回忌追善三世勘祖・八世勘十郎襲名舞踊会』にて八世宗家・藤間勘十郎を襲名。令和5年11月春秋座芸術監督に就任。

## ゲスト：金城真次氏

国立劇場おきなわ芸術監督。玉城流扇寿会師範。谷田嘉子、金城美枝子に師事。沖縄指定無形文化財「琉球歌劇」保持者。沖縄タイムス芸術選奨奨励賞（演劇）受賞。国立劇場おきなわ組踊研修修了。

## ◆古典女踊 金城真次

### 諸屯 しゅとん

この作品は、女性の強い思いをただただ内に秘め、抑制された所作で展開する舞踊です。静かな足の運びや、女踊特有のこねり手などにもご注目ください。

#### ◇詞章

##### 《仲間節》

思事のもても 他所に語られぬ  
面影と連れて 忍で拝ま

##### 《諸屯節》

枕並べたる 夢のつれなさよ  
月や西下がて 冬の夜半

##### 《しやうんがない節》

別て面影の 立たば伽めしやうれ  
慣れし匂袖に 移ちあもの

※「諸屯」は「仲間節」「諸屯節」「しやうんがない節」の三曲での構成

## ◆日本舞踊 藤間勘十郎

### 傾城音羽獅子 けいせいおとわじし

六世藤間勘十郎が大川橋蔵丈のために女形の獅子物として構成し作った作品。獅子物によくみられる毛振りとは異なる獅子の演出をお楽しみください。

#### ◇詞章

へ天下る紫雲の小袖糸竹の  
声も身にしむ雪の照り  
さんごの月かそれならぬ  
はなひと盛り桜時花の廓に花の雲  
鐘は上野か浅草か  
人声かすむ夕暮に  
みせずががきに引かれくる

#### 《八月傾城》

へ秋の扇と捨てられて  
紋び緋扇いつの世と  
固い約束ゆるがぬ要  
それへく 仲を白地の銀砂子  
ああしよんがいな  
浮気な風につきがたの  
すねて雲間にじらしていつか  
二人がねやの花扇薫る姿も秋風に  
しなもよや

#### 《川崎音頭》

##### へ桜花

たがえがくみも盛りとは  
いいあわさねど世の中の  
移り易さよ人心  
恋は苔の開くまでさつと浮名を流  
しては  
よいくくくくよんやさあ  
それえ  
曲水結ぶ谷かげに  
ちりもはじめぬひと木々は  
たれもめもやる幕の内  
調子の高い三味線に  
さとうはちるを待顔に  
鶯鳴けばほほえみて  
振袖口にあでやかな  
よいくくくよんやさ  
それえ  
それがほんほのことかない

#### 《小回次》

へ明けそむる空も緑の  
あれ松飾り  
後着の裾のこぼれ梅  
笑う軒場につれびきの  
海上はるかに見渡せば  
たけやと呼んで乗合の  
七福神の舟ぶとん  
宝ずくしや品定め  
人目の関の許しなき  
間夫に逢夜のまわし夜具

つい投げ入れの床の梅屏風の内の  
さざめ言  
ちわとりんきの二道に  
かごのとりかねきぬぐの  
別れは押絵羽子板の一よに二夕よ  
つけむらなじみ  
みたてられたる真実に  
四つよいから五つむつごとの  
なんなんなさげに山形の  
苦界になれてすえかけて  
十うと夫婦になりふりも  
よしや廓のはる遊び

#### 《天下り》

へ花笠や梅のなにわもなんのその  
花の東の花の時  
花の紐さえ結んでとけて  
「丹羽松扇」のしめくくり  
それが浮世の花かいな  
花のなかなる冬牡丹  
しばらく待たせたまえや  
影向の時節も今いくほどに  
よもつきじ  
清涼山の床の山  
重なるふとんががとして  
いくえいわおの重ね夜薪空だき烟  
る谷の霧  
げに面白き景色かな

#### 《人形傾城》

へ博多女郎衆は波枕  
ぬれた姿はそめあかね  
きやらのたきさし焦がれてかよう  
我が想いはくるまにも  
舟にもつめぬ数々は  
ふじの白たへ比良の雪  
風にちらく散る梅は  
空にしられぬあられ梅  
ふりさけみればおちこちの  
ちはうす色のかの子梅  
眺めへだつる庭の梅  
しばし木蔭にやすらいぬ  
へ大薩摩

#### 《三人石橋》

へ千丈みなぎる滝は雲より落ちて  
谷を望めば千尋の底  
勝連の獅子とら殿の舞樂のみきん  
牡丹の花房においみちみち  
たいきんりきんの獅子頭  
打てや囃せや牡丹房  
こうきんのずいあらわれて  
花にたわむれ枝にふしまろび  
げにも上なき  
獅子王のいきおい  
髪洗い獅子の座にこそ  
なおりけれ